

# ウツペツ川とオホーツナイ川(上)

前回までの三回は、「北海道三大河川を下る」など、旭川のアイヌ語地名を離れた話題を書かせていただいた。今回からは、オサラッペ川と石狩川の合流点から順次、石狩川を遡って、アイヌ語地名を見ていきたい。

最初に地図①の「ウツペツ川」を見ていこう。現行の河川調査によると、ウツペツ川の流路総延長は十一・七キロで、水源は突哨山に発して、現在は道央自動車道沿いに流れ、東鷹栖四線十三号から春光台下の末広六条、春光七条、緑町二十丁目等を通り、近文駅とオサラッペ川の間に、オホーツナイ川を入れて、近文大橋の下で石狩川に流入している。

ところが、地図②の明治三十一年製版の『北海道仮製五万分一図』では、「ウツペツ」(註「ウツペツ川」)は、石狩川ではなく、オサラッペ川に流入している。

この地図は、アイヌ語地名研究では、北海道のアイヌ語地名調査の基本地図となっている地図である。

実は、「ウツペツ」「ウツナイ」のアイヌ語名の川は、後述するが、流入する川が、どの川であるかが重要な意味を持っているのである。旭川の「ウツペツ川」は、現在は石狩川に流入している。しかし、地図②では「ウツペツ」は、オサラッペ川に流入している。

松浦武四郎の記録にも出てこない「ウツペツ川」は、どのような川だったのであろうか。

明治三十年に上川原野の殖民地調査をした道庁殖民課の技師試補・福原鉄之輔



地図② 明治31年—仮製5万分一図

云ふも不可なるべしと信ず。このように、原始の姿を伝えている。これがウツペツ川の現存する最古の記録である。

さて、明治二十三年に旭川を調査した永田方正は、このウツペツ川をウツナイとして、次のように地名解をした。ウツナイ (ut-nay 脇川) — オサラッペ川 (註「オサラッペ川」) の脇より大川 (註「石狩川」) に入る。永田方正は、地図②とは異なり、オサラッペ川ではなく、その脇から石狩川に流入しているとしている。

知里真志保は、昭和三十五年に、「上川郡アイヌ語地名解」で、「ウツペツ (ut-pet 肋・川)」は、次項の「ウツナイ (ut-nay 肋・川) を参照として、次のように解説している。ウツナイ (ut-nay 肋・川) は、湿原を流れて来て、直接本川に入らずに、他の川の横腹に肋骨がくっつくように、横から注いでいるもの。よく横川、脇川などと訳される。

地図②のように、「ウツペツ川」は、湿原を流れて来て、直接本川 (註「石狩川」) に入らずに、他の川 (註「オサラッペ川」) の横腹に肋骨がくっつくように、横から注いでいる川であるとしている。

(アイヌ語地名研究会幹事)

※毎月第1週号に掲載します

## 断章 旭川のアイヌ語地名研究

146

高橋 基



地図① 平成12年—5万地形図

の調査復命書では、上川原野の三大樹林すなわち、ポロニタイ (poro-nitay 大きい・森) の二つが、ウツペツ川沿いに突哨山の麓まで続く「ウツペチポロニタイ」であった。この「ウツペチポロニタイ」は、「ウツペチ原野」と名称を変えて『殖民地撰定報文』に記載された。福原は復命書で次のように報告している。

「ウツペチポロニタイ」は、ウツペチ川 (註「ウツペツ川」) に跨り、東北・突所山麓に達する平林にして、其面積四百万坪、拂、赤楊、及びその他の雑木にして概測に拠れば、壹百拾四万石許の材あり。此地は石狩川を去る纔に五丁乃至十丁にして、且つ、本川 (註「石狩川」) と平行すれば、運輸至便と